

第5回 伊勢市就学前の子どもの教育・保育に関する検討委員会 会議要旨

日時 平成24年11月7日(水) 14:00~16:00
場所 伊勢市役所 東庁舎4-2会議室
出席者 委員:10名
事務局:健康福祉部長、教育部長ほか

1 挨拶

山本健康福祉部長から挨拶

2 議事

(1) アンケート集計結果について

今回はアンケート結果を単純集計したものを資料として配布したが、保育所利用者と幼稚園利用者、いずれも利用していない者を区分して集計し、それぞれから伺える傾向をコメントとして記した集計結果(別紙)を配布した。

【委員からの主な意見】

- アンケート結果を読んで大変参考になった。
- 幼保一体化についての情報が少ないという意見もあった。広報等で再度知らせていくことも必要ではないか。
- 幼稚園利用者の保育希望時間で16時以降が相当いる。家事のためか保育所に入れなかったのか。今後を考えるうえで着目すべき点である。
- 幼稚園利用者は「働かなくてもよい」ではなく、子どものことを考えて幼稚園を選択しており、働くことを望んでいる場合もある。
- 保育所利用者と幼稚園利用者の結果にギャップがあることがわかった。
- 保護者としては質がよく長い時間預けられることを望んでいる。
- 保育所保育指針と幼稚園教育要領の内容はほぼ同じであるが、そのことが理解されておらず、幼稚園にしか「内容」を期待できないイメージがある。
- 保護者によって求める「教育」は様々である。

(2) 提言骨子(案)

提言作成に向けて事務局が作成した叩き台(別紙)を基に検討をした。

【委員からの主な意見】

- V1①の後段の「各地域」は「各園」ではないか。
→(他の委員から)地域の中の園という考え方でよいのでは。
- V1②には子どもの視点を入れるべきである。
- V2②は大きな課題である。「スリム化を図りながら」ではなく「スリ

ム化を実施して」と一歩進めなければこれまでと変わりがない。もっと具体的にすべきである。

- V 2②3年間の幼児教育は国も定めており、公立幼稚園も3年保育とすべき。私立幼稚園も認定こども園へ移行していくことにより、公立幼稚園の3年保育の問題は薄れていくのでは。市として公立の園を存続させていくことも重要であり、しっかりと市の幼児教育の方針を持っていくべきである。
- V 2③ある程度まで家庭で保育されることが望ましいが、早くから保育を必要とする家庭もある。早くから預けなくてもよい環境を整えることも必要である。
- V 2④行財政改革の視点からも15人ではなく20人とすべきでは。
→（他の委員から）以前の議論で15人が妥当となったのでは。
- V 3②地域との連携を大事にすべき。（「協育」）
- V 4アンケート結果では幼保を一体化することについての是非が分らないという意見が多い。認定こども園化が望ましいとは言えない。
- V 4幼稚園もしくは保育所しかない地域においては認定こども園化が必要と言えるのでは。

3 その他

次回については、アンケート結果も踏まえて検討事項を振り返ることとする。